「日々の理科」（第 1974 号） 2019, 12, -4

「小石川植物園の新しい温室（４）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員
田中　千尋　Chihiro Tanaka

小石川植物園の新温室は、中で栽培・展示されている植物も素晴らしいが、私はその近代的な設備もよく観察してきた。

展示・栽培台の下には、ヒーターが何本も通っている。植物の種類や季節によって、各ヒーターの温度を細かく管理できるようになっているそうだ。

「シマザクラ」は小笠原（父島や母島）の固有種で、現在は株数が減少し、絶滅危惧種に指定されている。23 区で見られる場所は非常に少ない。

小笠原の固有種には「ムニン」を冠する和名が多いが、これは小笠原諸島の英語表記”Bonin Islands”に関係がある。もともとは、「無人島（ぶにんじま）」と呼ばれ、それが”Bonin”と綴られ、最後に「無人（ぶにん）」が「無人（むにん）」と読まれたわけだ。

この温室の小笠原諸島の植物のコレクションは素晴らしい。これは「ムニンノボタン」（無人野牡丹）という希少種である。父島だけに自生する、小笠原固有種の一つだ。一時は野生では絶滅した種だが、小石川植物園の研究員が、父島の東海岸に「植え戻し」を行い、現在は約 200 株が現存しているという。

海外の珍しい植物もたくさん見られる。これはマユハケオモトという、南アフリカ産の植物。「葉っぱのお化け」のような植物だ。一体どんな花が咲き、それがどんな果実になるのか、非常に興味があった。